

# Oracle® Database

Client クイック・インストール・ガイド

10g リリース 1 (10.1.0.3) for Apple Mac OS X

部品番号 : B15785-01

原典情報 : B13956-01 Oracle Database Client Quick Installation Guide 10g Release 1 (10.1.0.3) for Apple Mac OS X

2005 年 1 月

---

このマニュアルでは、Mac OS X システムに Oracle Client をすばやくインストールする方法を説明します。次の内容について説明します。

1. このマニュアルの概要
2. root としてのシステムへのログイン
3. ハードウェア要件の確認
4. ソフトウェア要件の確認
5. 必要な UNIX グループおよびユーザーの作成
6. Oracle ベース・ディレクトリの作成
7. oracle ユーザーとしてのログインと oracle ユーザーの環境の構成
8. Oracle Client のインストール
9. インストール後の作業

**ORACLE®**

Copyright © 1996, 2004, Oracle.  
All rights reserved.

Oracle は、Oracle Corporation やその関連会社の登録商標です。その他、ソフトウェアもしくはドキュメントに表示されている商標および登録商標は、Oracle Corporation または各社が所有する商標または登録商標です。

# 1 このマニュアルの概要

---

---

**注意：** このマニュアルでは、Oracle ソフトウェアがインストールされていないシステムに Oracle Client をインストールする方法を説明します。ご使用のシステムに Oracle ソフトウェアがすでに存在する場合は、『Oracle Database Client インストール・ガイド for Apple Mac OS X』で、インストール手順の詳細を確認してください。

---

---

このマニュアルでは、新しい Oracle ホーム・ディレクトリに Oracle Client をデフォルトでインストールする方法を説明します。次のインストール・タイプの実行方法を説明します。

- **管理者：**アプリケーションを、ローカル・システムまたはリモート・システムの Oracle データベースに接続できます。また、Oracle データベースを管理するためのツールが提供されます。
- **ランタイム：**アプリケーションを、ローカル・システムまたはリモート・システムの Oracle データベースに接続できます。
- **Instant Client:** Instant Client 機能を使用する Oracle Call Interface アプリケーションに必要な共有ライブラリのみがインストールできます。このインストール・タイプは、他の Oracle Client のインストール・タイプに比べ、非常に少ないディスク領域で済みます。

**関連項目：** Instant Client 機能の詳細は、『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

## 追加インストール情報の入手先

Oracle Client のインストール方法の詳細は、『Oracle Database Client インストール・ガイド for Apple Mac OS X』を参照してください。

このマニュアルは、製品ディスクに含まれています。アクセスするには、Web ブラウザで、CD-ROM のトップレベル・ディレクトリの client ディレクトリ内にある welcome.htm ファイルを開き、次に「ドキュメント」タブを開きます。

## 2 root としてのシステムへのログイン

Oracle ソフトウェアをインストールする前に、root ユーザーとしていくつかのタスクを実行する必要があります。root ユーザーとしてログインするには、次の手順を実行します。

1. admin グループのメンバーであるユーザーとして Mac OS X デスクトップにログインします。

このマニュアルに説明されているインストールを完了するには、Mac OS X デスクトップにログインする必要があります。ソフトウェアをリモート・システムからインストールする場合、またはグラフィック・ハードウェアの装備されていないシステム上にインストールする場合は、Apple Remote Desktop を使用し、ソフトウェアをインストールするシステムの Mac OS X デスクトップを表示する必要があります。

2. ローカル・ターミナル・セッション (/Applications/Utilities/Terminal) を開始します。
3. root ユーザーとしてログインしていない場合は、次のコマンドを入力して root 権限でシェル・セッションを開始します。

```
$ sudo sh
```

4. パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。

---

---

**注意：** このかわりに、admin グループのメンバーであるユーザーとしてログインしている場合は、sudo コマンドを使用して root ユーザーとしてコマンドを実行できます。たとえば、次のように使用します。

```
$ sudo /usr/sbin/sysctl -a
```

---

---

### 3 ハードウェア要件の確認

システムは、少なくとも次のハードウェア要件を満たしている必要があります。

要件	最小値
物理メモリー (RAM)	256MB
スワップ領域	512MB または RAM のサイズの 2 倍 RAM が 2GB 以上あるシステムでは、スワップ領域は RAM のサイズの 1 ~ 2 倍が必要です。
/tmp 内のディスク領域	400MB
ソフトウェア・ファイル用のディスク領域	インストール・タイプにより、75 ~ 420MB のディスク領域

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. 物理的な RAM のサイズを調べるには、System Profiler (/Applications/Utilities/System Profiler) を使用するか、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/system_profiler SPHardwareDataType | grep Memory
```

システムにインストールされている物理的な RAM のサイズが 256MB 未満の場合は、追加のメモリーをインストールしてから続行してください。

2. システムに十分なスワップ領域があることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# df -h /
```

---

---

**注意：** MacOS X では、必要に応じてスワップ・ファイルが /private/var/vm ディレクトリに動的に作成されます。新たに作成されるスワップ・ファイルを収容できるように、ルート (/) ファイル・システムに最低 512MB の使用可能ディスク領域があることを確認してください。

---

---

3. /tmp ディレクトリ内の空きディスク領域の量を調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# df -h /tmp
```

/tmp ディレクトリで使用できるディスク領域が 400MB 未満の場合は、次の手順の 1 つを実行します。

- /tmp ディレクトリから不要なファイルを削除して、必要なディスク領域を確保します。

- oracle ユーザーの環境を設定する場合（後述します）は、TEMP および TMPDIR 環境変数を設定します。
  - /tmp ディレクトリを含むファイル・システムを拡張します。ファイル・システムの拡張方法は、必要に応じてシステム管理者に確認してください。
4. システムで使用できる空きディスク領域の量を調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# df -h
```

このコマンドにより、マウントされている全ファイル・システムのディスク領域の使用量が表示されます。インストールを実行するには、空きディスク領域が十分にあるファイル・システムを特定します。

## 4 ソフトウェア要件の確認

システムは、少なくとも次のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

- オペレーティング・システムのバージョンが Apple Mac OS X Server 10.3.6 であること。
- 次のソフトウェア（またはそれ以上のバージョン）がインストールされていること。
  - Xcode ツールのバージョン 1.1
  - GNU C コンパイラ (gcc) のバージョン 3.3 20030304 (Apple Computer 社、ビルド 1635)

このバージョンの gcc は、Xcode ツール 1.2 以上または Dec 2003 gccLongBranch Tools アップデートに含まれています。

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. オペレーティング・システムのバージョンを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# sw_vers
```

このコマンドは、次のような出力を戻します。

```
ProductName:   Mac OS X Server
ProductVersion: 10.3.6
BuildVersion:  7R28
```

---

**注意：** Mac OS X のみがサポートされます。

---

2. 必要な gcc のバージョンがインストールされているかどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# gcc -v
```

このコマンドは、次のような出力を戻します。

```
Reading specs from /usr/libexec/gcc/darwin/ppc/3.3/specs
Thread model: posix
gcc version 3.3 20030304 (Apple Computer, Inc. build 1635) (-mlongcall)
```

必要なバージョン（日付およびビルド番号を含む）またはそれ以上のバージョンがインストールされていない場合は、次のいずれかをダウンロードしてインストールします。

- Dec 2003 gccLongBranch Tools アップデート
- Xcode ツール 1.2 以上（適切なバージョンの gcc が含まれています）

このソフトウェアは、次の Apple Developer Connection Web サイトからダウンロードできます。

<http://connect.apple.com>

ログインした後、「Download Software」を選択してから「Developer Tools」を選択して、ダウンロード・ページを表示します。

## 5 必要な UNIX グループおよびユーザーの作成

システムに次のローカル UNIX グループおよびユーザーが存在している必要があります。

- oinstall グループ（Oracle インベントリ・グループ）
- dba グループ（OSDBA グループ）
- oracle ユーザー（Oracle ソフトウェアの所有者）

これらのユーザーおよびグループを作成するには、次の手順を実行します。

---

**注意：** コマンドライン・ユーティリティを使用して必須のユーザーおよびグループを作成する方法の詳細は、『Oracle Database Client インストール・ガイド for Apple Mac OS X』を参照してください。

---

1. Workgroup Manager (/Applications/Server/Workgroup Manager) を開始します。
2. oinstall および dba グループを作成します。
3. oracle ユーザーを作成し、次の情報を指定します。
  - 「Primary group」には、oinstall を指定します。
  - 「Other groups」には、dba を指定します。
4. oracle ユーザーのパスワードを設定します。

## 6 Oracle ベース・ディレクトリの作成

次のような名前の Oracle ベース・ディレクトリを作成し、そのディレクトリに、適切な所有者、グループおよびアクセス権を指定します。

```
/Volumes/u01/app/oracle
```

Oracle ベース・ディレクトリには、インストール・タイプにより、75～420MBの空きディスク領域が必要です。

インストール・タイプ	ソフトウェア・ファイルの要件 (MB)
Instant Client	75
管理者	420
ランタイム	200

このディレクトリを作成する位置を決定するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、マウントされているすべてのファイル・システムに関する情報を表示します。

```
# df -h
```

このコマンドにより、システムにマウントされているすべてのファイル・システムに関する情報が表示されます。次のような情報があります。

- 物理デバイス名
  - ディスク領域の合計量、使用量、および使用可能な量
  - そのファイル・システムのマウント・ポイント
2. 表示されている中から、空きディスク領域が十分にあるファイル・システムを特定します。
  3. 特定したファイル・システムのマウント・ポイント・ディレクトリ名を書き留めます。

次の例では、/Volumes/u01 がソフトウェアに使用されるマウント・ポイント・ディレクトリです。ご使用のシステム上のファイル・システムへの適切なマウント・ポイント・ディレクトリを指定する必要があります。

必要なディレクトリを作成し、そのディレクトリに適切な所有者、グループおよびアクセス権を指定するには、次の手順を実行します。

---

**注意：** 次の手順では、/Volumes/u01 を、前述の手順 3 で特定した適切なマウント・ポイント・ディレクトリに置き換えてください。

---

1. 次のコマンドを入力して、Oracle ベース・ディレクトリ用に特定したマウント・ポイント・ディレクトリにサブディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p /Volumes/u01/app/oracle
```

2. 作成したディレクトリの所有者およびグループを、oracle ユーザーおよび oinstall グループに変更します。

```
# chown -R oracle:oinstall /Volumes/u01/app/oracle
```

3. 作成したディレクトリのアクセス権を 775 に変更します。

```
# chmod -R 775 /Volumes/u01/app/oracle
```

## 7 oracle ユーザーとしてのログインと oracle ユーザーの環境の構成

インストーラは、oracle アカウントから実行します。ただし、インストーラを起動する前に、oracle ユーザーの環境を構成する必要があります。環境を構成するには、次の設定が必要です。

- シェル起動ファイルで、デフォルトのファイル・モード作成マスク (umask) を 022 に設定します。
- ORACLE\_BASE 環境変数を設定します。

oracle ユーザーの環境を設定するには、次の手順を実行します。

1. 別のターミナル・セッションを開始し、oracle ユーザーとしてログインします。
2. oracle ユーザーのデフォルト・シェルを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
$ echo $SHELL
```
3. oracle ユーザーのシェル起動ファイルをテキスト・エディタで開きます。
  - Bash シェル (bash) :

```
$ vi .bash_profile
```
  - Bourne シェル (sh) または Korn シェル (ksh) :

```
$ vi .profile
```
  - C シェル (csh または tcsh) :

```
% vi .login
```
4. シェル起動ファイルで次の行を入力または編集して、デフォルトのファイル・モード作成マスクに値 022 を指定します。

```
umask 022
```
5. ファイルを保存して、エディタを終了します。
6. シェルの起動スクリプトを実行するには、次のコマンドを入力します。
  - Bash シェル:

```
$ . ./bash_profile
```
  - Bourne シェルまたは Korn シェル:

```
$ . ./profile
```
  - C シェル:

```
% source ./login
```

7. ハードウェア要件を確認したときに、/tmp ディレクトリの空きディスク領域が不十分と判断した場合は、次のコマンドを入力して、TEMP および TMPDIR 環境変数を設定します。空きディスク領域が十分にあるファイル・システムのディレクトリを指定します。

■ Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ TEMP=/directory
$ TMPDIR=/directory
$ export TEMP TMPDIR
```

■ C シェル:

```
% setenv TEMP /directory
% setenv TMPDIR /directory
```

8. 次のようなコマンドを入力して、ORACLE\_BASE 環境変数を設定します。

■ Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ ORACLE_BASE=/Volumes/u01/app/oracle
$ export ORACLE_BASE
```

■ C シェル:

```
% setenv ORACLE_BASE /Volumes/u01/app/oracle
```

これらの例で /Volumes/u01/app/oracle は、事前に作成した Oracle ベース・ディレクトリです。

9. ORACLE\_HOME および TNS\_ADMIN 環境変数が設定されていないことを確認するために、次のコマンドを入力します。

■ Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ unset ORACLE_HOME
$ unset TNS_ADMIN
```

■ C シェル:

```
% unsetenv ORACLE_HOME
% unsetenv TNS_ADMIN
```

10. 環境が正しく設定されたことを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
$ umask
$ env | more
```

umask コマンドにより値 022 が表示されていること、およびこの項で設定した環境変数に適切な値が設定されていることを確認します。

## 8 Oracle Client のインストール

oracle ユーザーの環境を構成した後、次のようにしてインストーラを起動し、Oracle ソフトウェアをインストールします。

1. Oracle Client 10g CD-ROM または Oracle Database 10g DVD-ROM をディスク・ドライブに挿入します。
2. インストーラを起動するには、次のコマンドを入力します。 `directory_path` は、CD-ROM マウント・ポイント・ディレクトリまたは DVD-ROM 上の `client` ディレクトリです。

```
$ /directory_path/runInstaller
```

3. 次のガイドラインを使用して、インストールを完了します。
  - 次の表に、インストーラの各画面での推奨するアクションを説明します。

---

**注意：** 前述のタスクを完了している場合、ほとんどの画面でデフォルトを選択してインストールを完了できます。

---

- より詳細な情報が必要な場合、またはデフォルト以外のオプションを選択する場合、「ヘルプ」をクリックすると追加情報が表示されます。
- root 権限でスクリプトを実行するようにプロンプトで指示された場合は、root ユーザーとしてログインしたターミナルで次のようなコマンドを入力し、「続行」または「OK」をクリックします。

```
# /script_path/script_name
```

または、admin グループのメンバーであるユーザーとしてログインしたターミナルで、次のようなコマンドを入力してスクリプトを実行します。

```
$ sudo /script_path/script_name
```

- ソフトウェアのインストール時またはリンク時にエラーが発生した場合は、『Oracle Database Client インストレーション・ガイド for Apple Mac OS X』のトラブルシューティングの説明を参照してください。

画面	推奨するアクション
ようこそ	「次へ」をクリックします。
インベントリ・ディレクトリおよび接続情報の指定	<p><b>注意：</b> この画面は、システム上に初めて Oracle 製品をインストールする場合にのみ表示されます。</p> <p>次の情報を指定して、「次へ」をクリックします。</p> <p><b>「インベントリおよびディレクトリのフルパスを入力してください」</b></p> <p>パスが次のようになっていることを確認します。 <code>oracle_base</code> は、ORACLE_BASE 環境変数に指定した値です。</p> <pre>oracle_base/oraInventory</pre> <p><b>「オペレーティング・システム・グループ名の指定」</b></p> <p>指定されているグループが Oracle インベントリ・グループであることを確認します。</p> <pre>oinstall</pre>
orainstRoot.sh の実行	<p>このプロンプトが表示された場合、次のスクリプトを別の端末ウィンドウで root ユーザーとして実行します。</p> <pre>oracle_base/oraInventory/orainstRoot.sh</pre>

画面	推奨するアクション
ファイルの場所の指定	「インストール先」セクションで、Oracle ホーム・ディレクトリの「パス」の値が次のようになっていることを確認し、「次へ」をクリックします。  <code>oracle_base/product/10.1.0/client_1</code>
インストール・タイプの選択	「InstantClient」、「管理者」または「ランタイム」を選択し、「次へ」をクリックします。
サマリー	表示された情報を確認して、「インストール」をクリックします。
インストール	「インストール」画面では、製品のインストール中、ステータス情報が表示されます。
Configuration Assistant	<b>注意:</b> この画面は、管理者またはランタイム・インストールの場合にのみ表示されます。  「Configuration Assistant」画面には、Oracle Net を構成する Oracle Net Configuration Assistant のステータス情報が表示されます。
Oracle Net Configuration Assistant: ようこそ	画面の情報を確認して、「次へ」をクリックします。  Oracle Net Configuration Assistant により、簡易接続ネーミング・メソッドが構成されます。このネーミング・メソッドの詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。
Oracle Net Configuration Assistant: 完了	「終了」をクリックして継続します。
セットアップ権限	<b>注意:</b> この画面は、管理者またはランタイム・インストールの場合にのみ表示されます。  このプロンプトが表示された場合、次のスクリプトを別の端末ウィンドウで root ユーザーとして実行します。  <code>oracle_home/root.sh</code>  この例で <code>oracle_home</code> は、ソフトウェアをインストールしたディレクトリです。正しいパスが画面に表示されます。  [Return] キーを押して、スクリプトによって表示される各プロンプトのデフォルト値を受け入れます。スクリプトが完了した後、「OK」をクリックします。
インストールの終了	インストーラを終了するには、「終了」をクリックし、次に「はい」をクリックします。

## 9 インストール後の作業

Oracle Client のインストールが完了した後、『Oracle Database Client インストレーション・ガイド for Apple Mac OS X』の第 4 章で、インストール後の必須およびオプションの手順を参照してください。